

奨学金受給生の言葉



経済学部 商学科

澤田 庸平

この度は、駒澤大学駒澤会奨学生に選んでいただきありがとうございます。大変光栄に感じております。

私は大学入学当初から、学生生活における出費の多さを不安に思っていました。両親は心配する必要はないと言ってくれていたものの、やはり入学金や授業料などの学費に加え、学費以外でかかる費用のことも考えると家計への負担は相当なものです。そこで奨学金についていろいろと調べていたところ、給付型の奨学金制度である駒澤会を見つけました。正直詳しいことはよく知らなかったのですが、勉強を頑張れば奨学生になれるかもしれない、そして家計への負担が減らせると思い、頑張りました。実際、部活やサークルに入り、アルバイトもやっている自分が奨学生に選ばれる可能性はないと思っていたので、奨学生採用の通知をいただいた時は、嬉しさというよりも驚きの方が大きかったです。

奨学生に選ばれるためにはとにかく勉強しなければならないので、部活やアルバイトなんてやらない方が良く思っていた時期もありました。しかし、四年間という限られた大学生活の中で、自分がやりたいと思った事には何にでも挑戦したい、そして悔いは残したくなかったので部活動にも入りアルバイトも始めました。勉強と課外活動の両立は大変ですが、その多忙な生活の中、駒澤会奨学生に選ばれたことは、私にとって大きな自信になりました。

これからも駒澤会奨学生に選ばれたという喜びや自信を忘れず、残りの大学生活を有意義に送りたいと思っています。

本当にありがとうございました。



グローバル・

メディアスタディーズ学部

松下 清香(さやか)

この度は、駒澤会の奨学生として選んで頂き、大変光栄に思っております。

高校時代に、「大学は、本当に自分の学びたい事が学べるところで、高校のように、義務教育で苦手な科目でも学ばなければならない、という事はない」と先生に言われ、「ならば大学に入ったら、その分勉強を頑張って、学年トップになる!」と心に決めていました。公立高校に通っていた事もあり、私立大学の学費の高さから、その学費を無駄にしないように頑張ろう!という気持ちもありました。そして学年トップという夢を果たし、学業奨励賞などの賞を頂いた最中、友達から駒澤会の事を聞きました。自分は、奨学金というものは、経済的に悩んでいる学生だけが受給するものだと思っており、全く目を通していませんでした。なので、まずは駒澤会の事を教えてくれた友達に感謝します。

早速応募し、25名しかいない受給者の中に選ばれた、という通知を見た時は、とても嬉しかったです!高校時代から抱いていた学年トップという夢を果たす事が出来た上に、その成績を活かして奨学金を得る事が出来たからです。特に両親には、高い学費を払ってもらっているだけに、弟の高校の学費など、様々な面でお金が掛かっているのも、その分のお返しを自分なりにする事が出来て嬉しかったです。

来年は、研修として、南インドに支援活動に行こうと考えています。その際は、両親のお金ではなく、自分が今までバイトで貯めたお金で行こうと思っているので、この奨学金があるのとないのでは、自分の精神的な負担は大きく違います。大学を卒業してからも、海外に研修として1年間程行こうと考えているので、その際の出費などを大きく軽減してくれた事は、自分にとって非常に大きな意味があります。将来は、世界を支配したいと強く考えています!何かの分野で一番になることです!人生一度きりだと思ふ分、私の夢は大きいです!

新年賀詞交歓会

平成 20 年 1 月 12 日（土）グランドプリンスホテル赤坂 ロイヤルホール 午後 2 時～



駒澤大学教育後援会主催により、大学の諸先生方・職員の方々、駒澤会維持会員、教育後援会役員の協力で開催されました。宮本理事長はじめ、当局の方々の御出席を賜り、盛大に行われました。和太鼓の演奏でスタートし、池田学長、教育後援会会長の挨拶、そして駒澤会からは井上副会長が挨拶と活動紹介をし、駒澤会入会を呼びかけました。大勢の方々の参加の中、河本 明さんのハーモニカ演奏、吹奏楽部によるマーチングバンド、湯川こずえさんの秋田長持歌の披露がありました。さらに教育後援会委員による名司会で、恒例の抽選会も開催されました。駒澤会特別賞（旅行券5万円分）は、加藤さんが見事に引かれました。早速、本号に旅行記をお願いしましたので、お読み下さい。駒澤会からは、赤堀副会長、井上副会長、青木・高笠・高見各顧問はじめ、総勢54名の出席がありました。

場所をかえて行われた二次会（新年会）には、大谷名誉会長にも御出席いただき、大変盛り上がった時間を過ごすことができました。

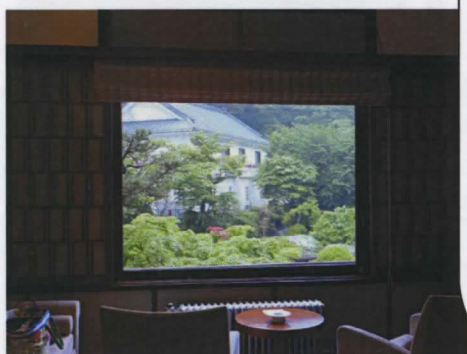
本年も会員相互の交流を深めながら、駒澤会の活動が滞りなく進む一年であることを切に願います。

山田春雄

「駒澤会特別賞」当選の加藤さん(株式会社デジタルアドサービス)より、旅行記が届きましたので、紹介させていただきます。



加藤さん



「クラシック日光」

5月の末に友人と日光に行ってきました。教育後援会新年賀詞交換会でいただいた『特賞旅行券5万円』を使って。宿はあこがれのクラシックホテル「日光金谷ホテル」です。もちろんこんな高級ホテルには泊まった事のない私ですが最高です。何泊でもしたいです。

日光金谷ホテルは130年の歴史のある現存する日本最古の西洋式ホテルで、ヘレン・ケラーも滞在したことがあるそうです。建築的・歴史的に多くの見どころのある素敵なホテルでありながら、レストランで提供する野菜をホテルの人が裏山で手作りしていたりと、温かみのあるもてなしにくつろいで過ごすことができました。

翌日は滝尾稲荷神社講社大祭が行われるという事なので、(私達には)早起きして、東照宮の北、樹齢数百年の天井も見えない杉に囲まれた石畳の参道を30分ほど行きました。

神社周辺は滝のあるせいか、もやがかかっていてひんやりとした空気が非常に心地よく感じられました。森の奥で行われていた大祭は、巫女さんが太鼓の音に合わせて鈴を鳴らしながら舞い踊るおとぎ話のような祭でした。

東京から電車で2時間、駅弁を食べていたら着いてしまったのに、時間がゆっくり流れていて別世界のようでした。たのしい旅行になりました。ありがとうございました。



初夏の親睦会報告

平成 20 年度初夏の親睦会・講道館にて

北京オリンピックを2ヵ月後に控えた6月7日(土)、駒澤会恒例の初夏の親睦会が、会員40名参加の下、講道館で開催されました。オリンピックに、柔道選手を多数(日本一)輩出している講道館で資料館・演武を見学した後、講道館内のレストラン(一戸隆男氏経営)で懇親会が行われました。

当日は柔道着に紅白の帯(紅白の帯は6段から8段の有段者で、一戸さんは8段との事で日本にも何人もおられないそうです)をキリリと結んだ一戸さんに迎えられ案内して頂きました。始めに講道館2階にある資料館を見学させて頂きました。講道館は1882年(明治15年)嘉納治五郎師範によって、創設されました。資料館に入ってすぐ目に入ったのが、正面奥の文字でした。「無心にして自然の妙に入り、無為にして変化の神を窮む」これは、技の境地を表現しており、明治維新の功労者「勝海舟翁」が下富坂道場の落成式において、嘉納師範の演ずる形に感銘を受けて贈られたものだそうです。その他、講道館の歴史を始め、嘉納治五郎師範の生涯は勿論の事、小説「姿三四郎」のモデルとなった、西郷四郎6段の稽古着等、貴重な資料が沢山展示されていました。

次に6階の道場に移動し形を見学させて頂きました。須賀将行氏と田中寿氏(お二人は、全日本柔道形選手権大会で優勝し、近年まで警察官として活躍されていた方々です。)によって形が披露されました。参加者に女性が多かったせいか、護身術の技を見学させていただいたのですが、あまりの早い動きに目を見張るばかりで、圧倒されました。しかし、物騒な事件が多い昨今、この様に身を守る事ができる護身術のいくつかは、身に着きたいものだと思います。

その後地下1階のレストラン(ジェビアン)で懇親会が行われました。村田副会長のご挨拶の後、赤堀副会長の乾杯のご発声で宴が始まりました。お料理は、その朝産地直送の新鮮な物ばかりで、スパゲティは直前に手打ちされた物が出され、どれを頂いても申し分なく美味しく、皆さんも大満足のご様子でした。また、アルコール類は、中々手に入らない貴重な日本酒や焼酎、ワインが豊富に用意されており、それらを惜しげも無く放出して下さった一戸さんに、心から感謝申し上げます。宴中盤には、ジャンケン大会があり、一戸さんからは高砂部屋の浴衣地2反と、厚生部が準備した図書券の3品を競って、大いに盛り上がりました。その後全員にお土産(講道館のキャラクターキーホルダーとハンカチ)が配られた後、井上副会長の閉会の挨拶で、今年の初夏の親睦会が終了しました。

不手際な点が多々あったかと思いますが、賜りましたご意見は謙虚に受け止め、今後には生かして参りたいと存じますので、今後ともご協力の程、宜しくお願い致します。

最後に今回の企画に対し、ご尽力頂きました一戸さん始め、執行部、事務局の唐澤さん、そしてご参加頂きました皆様に心から感謝申し上げます。

田 邊 隆 子

